

◆市民利用中心か興行利用中心か

表1、ホール利用実績

区分	使用者	平成28年度			令和元年度		
		市内	市外	合計	市内	市外	合計
市民・公共・興行外利用	1. 官公庁	10	3	13	10	3	13
	2. 学校	48	44	92	41	41	82
	3. 文化団体	23	29	52	28	26	54
	4. 会社	0	24	24	0	17	17
	5. 自主事業 (興行外)	4	0	4	7	0	7
		85	100	185	86	87	173
				76%			70%
興行利用	5. 組合・宗教	0	5	5	0	7	7
	6. 鑑賞団体	0	0	0	1	0	1
	7. 興行・プロ	0	33	33	0	36	36
	8. 劇団・演奏	0	11	11	0	14	14
	9. 音楽事務所	0	0	0	0	0	0
	10. テレビ放送	0	5	5	0	4	4
	11. 自主事業	4	0	4	8	0	8
	12. その他	1	1	2	1	4	5
		5	55	60	10	65	75
				24%			30%
合計		90	155	245	96	152	248

○「市民利用中心」か「興行利用中心」かによって建設上影響が考えられる項目

	市民利用	興行利用
座席数	習志野高等学校の定期演奏会、習志野第九合唱団等の一部の公演を除き、「現状維持」「規模縮小」や「分割して一部分を小規模で利用可能なホール」を望む声が多い。なお、成人式の出席者数を現状の15歳以下各年齢の60%（直近3年の出席率が50%台のため）と想定すると、約900人を見込む。	興行の演目により意見が大きく二分している。 ソリストの演奏会や音楽以外の公演では「規模縮小」という意見がある。規模を縮小し、チケットが常に完売した方が良いという考え方である。 一方で、大規模なコンサート等で大きな収益を望む場合は、「規模拡大」が必要であり、一つの指標として2,000席あると興行の幅が広がるようである。
(備考)	※1,500席は、どちらにも適した中間値である。一方で、どちらにも最適な座席数ではない可能性も有る。ターゲットを絞り、座席数をそのターゲットに最適な数にしていくか検討を要する。また、公共施設の総量圧縮の考えにも配慮が必要。	
搬入口	利用者ヒアリングを実施した団体は、最大で4tトラックでの搬入出である。したがって、4tトラックを止め置ける規模とする。搬入口の規模は比較的「小規模」が良い。ただし、	興行利用のうち、大型の舞台装置を使用するコンサート等の場合のみ11tトラックでの搬入出を行う。11tトラック複数台での搬入は、現ホールでは年間10~15回程度である。したがって、11tトラック2台分止め置ける規模を要望する。興行利用中心とする場合は、「大規模」の搬入口が必要となる。
(備考)	※11tトラック2台分のスペースを確保することは、市の負担額に影響を及ぼす。 しかしながら、11tトラックが止め置けないことが現ホールで大規模な興行が呼べない理由の一つのことである。また、「観る・聴く」といった市民利用を想定すると、市民利用中心であっても11tトラック1台分程度は検討する。したがって、興行を一切排除するのでなければ「市民利用中心＝小規模な搬入口」に決めることはリスクを伴う。ただし、大きな搬入スペースを確保する費用を、その他市民利用のために使用してほしいという意見もいただいている。	